

## 第2期白岡市国民健康保険データヘルス計画中間評価報告書 概要版

### 1 中間評価の目的

健康や医療に関する情報を活用して健康課題の分析、保健事業の評価等を行うための事業計画として「データヘルス計画」を作成するが、本市においては、平成30年度から令和5年度までの6年間の期間とする「第2期白岡市国民健康保険データヘルス計画等・第3期特定健康診査等実施計画」を策定し、保健事業を実施している。

令和2年度は、その中間年に当たるため、計画の進捗状況を、目標達成状況や取組の成果で評価し、より効果的な保健事業をPDCAサイクルで推進できるよう見直しを行う。

### 2 データヘルス計画の概要

#### <目的>

保健事業、特定健診等の展開により被保険者が自主的に生活習慣病を予防することで、健康寿命を延伸する。

#### <目標>

#### (1) 特定健康診査・特定保健指導の受診率向上

・特定健康診査等事業 ・特定健康診査未受診者対策 ・総合健康診断助成事業 ・特定健康診査等周知啓発活動

#### (2) 生活習慣病の重症化予防

・健康相談 ・生活習慣病重症化予防対策事業 ・運動（栄養）教室

#### (3) 健康意識・医療費への関心の向上

・医療費通知事業 ・ジェネリック医薬品利用差額通知事業

### 3 主な評価指標の推移（データヘルス計画全体の評価）

#### (1) 評価指標からみた現状

健康度を示す指標項目 目標達成のための指標項目		ベース ライン① (H28年度)	中間評価② (R1年度)	中間評価 ①と②の比較	最終年度目標 (R5年度)	
生命表	平均寿命（歳）	男性	80.86	81.41	延伸	維持
		女性	87.13	87.22	延伸	維持
	65歳以上健康寿命 （歳）	男性	17.73	17.90（県内16位）	延伸	維持
		女性	20.40	20.70（県内19位）	延伸	維持
医療	一人当たり医療費	療養諸費 （円／人・年）	349,488	366,491	増加	維持
		医科・歯科 （円／人・月）	27,266	28,838（県平均26,657）		
	人工透析患者の割合（％）	0.34	0.35（市町村平均0.38）	維持	市町村平均以下	
	ジェネリック医薬品数量シェア率（％）	68.7	75.1	増加	80	
特定健診	特定健診受診率（％）	35.0	43.8	上昇	60	
	特定保健指導実施率（％）	13.6	22.1	上昇	60	
	内臓脂肪症候群・予備群の割合（％）	25.5	30.4（H28から増加率4.9） （市町村平均30.3 増加率2.4）	増加	増加率が市町村 平均以下	
介護	認定率（1号）（％）	13.1	13.6	増加	維持	

(2) 評価指標からみた評価

- ・ 65 歳以上健康寿命は延伸しており、県内順位は男性 16 位、女性 19 位となっている。
- ・ 一人当たり医療費は増加しており、県平均よりも高い状況となっている。
- ・ 特定健康診査受診率・特定保健指導実施率は増加しているが、目標値と乖離している。
- ・ 介護 1 号認定率は微増している。

4 個別保健事業の評価と事業の方向性

(1) 優先順位 1 特定健康診査・特定保健指導の受診率向上

<指標の目標値と実績値>

○特定健康診査受診率(%)

年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
目標値	前年度より1.5%増	40	44	48	52	56	60
実績値	35.9	40.6	43.8	-	-	-	-

○特定保健指導実施率(%)

年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
目標値	前年度より1%増	15	25	35	45	55	60
				30	35	40	45
実績値	29.3 (前年度13.6)	22.9	22.1	-	-	-	-

・ 目標値：国が掲げる特定保健指導の実施率の目標値は、R5 年度に市町村国保 60%、国全体では 45%としていることから、上段はデータヘルス計画（市町村国保）、下段は国全体からみた目標値

<評価>

- ・ 特定健診の受診率は年々向上し、令和元年度では県内平均を上回ったが、目標となる令和 5 年度の 60%との乖離は大きく、さらに効率的・効果的な受診率向上の施策を試みる必要がある。
- ・ 特定保健指導実施率は、市町村平均をやや上回り横ばいで推移している。特定保健指導は、利用者が 4 か月後の指導を確実に修了できるようより効果的な支援を行うことが必要。

<事業の方向性>

受診率の向上により、健康への関心、早期受診や特定保健指導等による生活習慣病の改善、悪化予防を図り、健康寿命を延ばす。

- ・ 引き続き、未受診者対策（AI による分析の活用）、特定健診代替データの活用、インセンティブの活用等及び勧奨の実施方法の検討
- ・ 特定保健指導対象者、利用者の分析を行い、効果的な支援の検討及び周知方法の検討
- ・ 郵送による通知以外の勧奨として、SMS（ショートメッセージサービス）配信による受診勧奨等
- ・ 人間ドック助成利用（ドック結果の提供）や事業主健診結果の提供の周知
- ・ 若年層が健康意識を高めるための事業展開の検討
- ・ 特定保健指導が非該当となる非肥満高血糖の糖尿病移行予防対策の検討

(2) 優先順位 2 生活習慣病の重症化予防

<指標の目標値と実績値>

○人工透析患者の割合 (%)

年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
目標値	市町村平均以下	市町村平均以下	市町村平均以下	市町村平均以下	市町村平均以下	市町村平均以下	市町村平均以下
実績値	0.32 (0.35)	0.35 (0.37)	0.37 (0.38)	-	-	-	-

実績値の ( ) は市町村平均

○内臓脂肪症候群・予備群の割合 (%)

年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
目標値	-	-	-	増加率が市町村平均以下			
実績値	27.2	29.2	30.4 (H28から増加率4.9) (市町村平均30.3 増加率2.4)	-	-	-	-

<評価>

- ・人工透析患者の割合は横ばい傾向であり、県内に比して同等。
- ・内臓脂肪症候群・予備軍の割合は、県内に比して同等だが、県同様に徐々に悪化の傾向がある。
- ・糖尿病性腎症重症化予防対策事業は、県、国保連との共同事業で委託業者と連携しているが、保健指導や継続支援勧奨後の参加率が低く参加者を増やすために周知方法等の検討が必要。また、将来的な人工透析への移行防止について、長期的な経年変化を見ていく必要がある。
- ・発症や悪化予防を図るため生活習慣病予備群への介入は必要であり、介入方法の検討が必要。

<事業の方向性>

- ・糖尿病重症化予防対策事業実施の継続。より参加しやすい募集方法への変更
- ・生活習慣病予備群の者への介入方法の検討
- ・庁内連携による既存事業の横断的な活用

(3) 優先順位 3 健康意識・医療費への関心の向上

<指標の目標値と実績値>

○ジェネリック医薬品数量シェア (%)

年度	H29 年度	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度
目標値	80%に近づける	80%に近づける	80%に近づける	80%に近づける	80%に近づける	80%に近づける	80%に近づける
実績値	71.1	76.3	75.1	-	-	-	-

<評価>

- ・ジェネリック医薬品利用差額通知により、ジェネリック医薬品数量シェアは上昇がみられ、R2年1月時点で約850,000円の医療費適正化に寄与した。ただし、国の目標である80%には至っていないため、目標値に近づけるための分析や周知、医療機関・薬局への働きかけ方法の検討が必要。

### <事業の方向性>

- ・医療費通知は、H20 年度以前から国保連に通知作成を委託しがきを発送しているもので、医療費に関心を持つ一助となっていることや、ジェネリック医薬品の利用を促進することが医療費の適正化にもつながることから、今後も継続事業として実施する。
- ・KDB システム等を活用した調剤等（年齢、疾病等）の分析及び医療機関、薬局との連携の検討
- ・適正な医療受診の周知啓発（重複・頻回受診）の検討

### 5 計画後半の実施体制・進捗管理と最終評価

評価は、KDB システム等も活用し、可能な限り数値を用いて行っていく。

また、評価方法（評価に用いるデータの入手時期、方法を含む）・体制については、評価を行う会議体等に意見を聴取する。

今般の中間評価の後、令和5年度に、計画に掲げた目的・目標の達成状況の最終評価を行う。策定した計画は、白岡市の広報誌やホームページに掲載するとともに、実施状況のとりまとめを行い、評価・見直しに活用するために報告書を作成する。